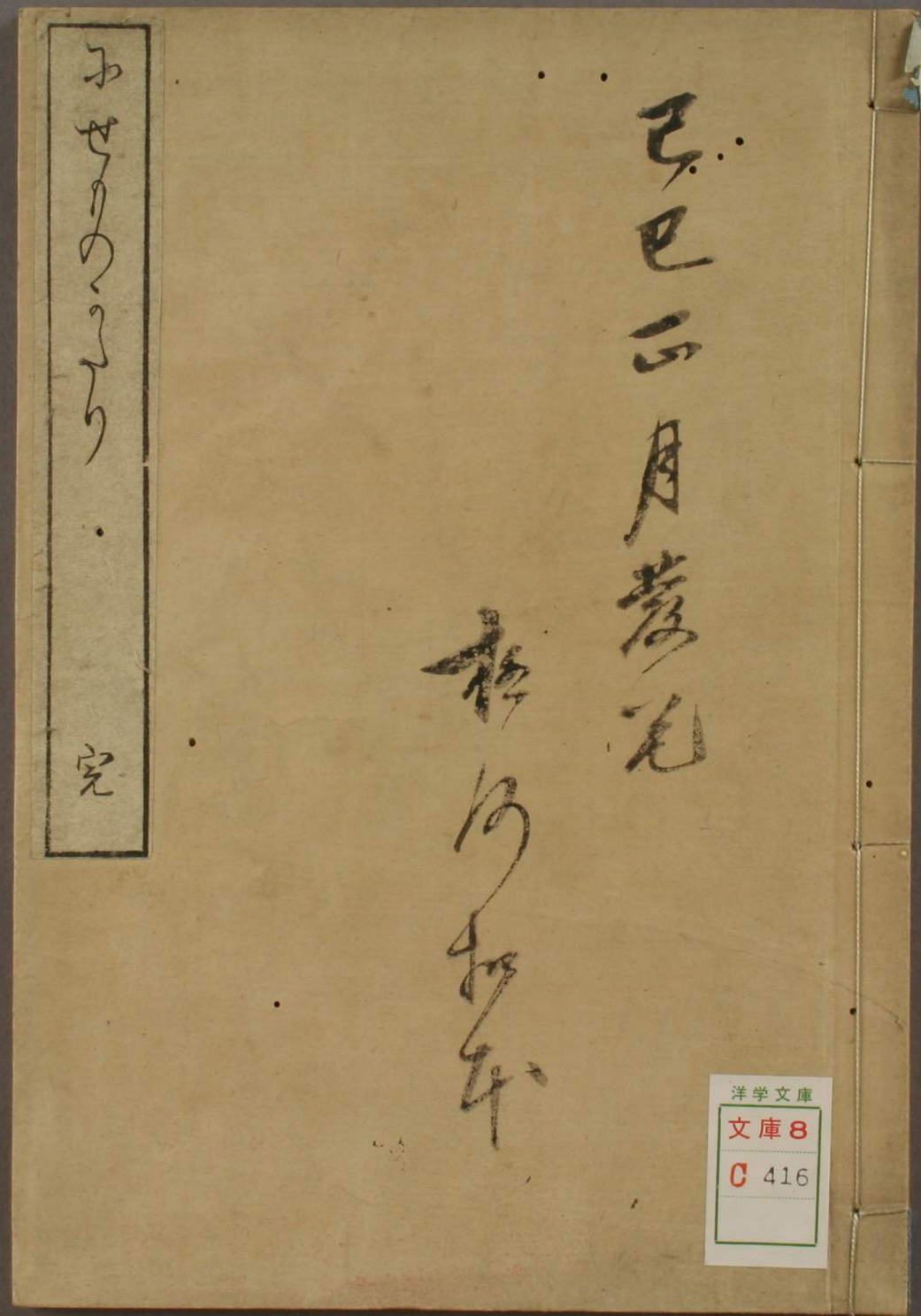

洋学文庫
文庫8
C 416

叢書五十種之一

にきたつ里

柘園孫板

紙墨精良

41- 7171

昭和天皇御覧書

よだものかたり

むかし男ありけり人のもとよ夜ひと夜やとれりけるをり
ゆくりなくひとりの女よけさうしてけりをしさふくいひ
よるへくもあらさりけれを心をおんくるしめける男よめ
りける

おもふともこふともゝのゝいたれぬと思ひあまれる
ゝきりふりけり

のちよきけむ人のつまよと子きへもさりとゝ男あしひり
をしてふけゝとゝひふし

いて人をかりひもうけー風ふけをおきつーらおみ名
をもとそさて
昔をとこありけり人のむすめよーのひて物いひとさりけ
るよおやのもやう志りてあせすふりよけれも人をさの
みてひそうよせうそこすとて
うきふのみさうーの濵よみつー不のふとうらきめを
人ゝ見すらん
うへりとともき志えすれいのおやのとりうくせりけるよ
やおはつうふー
むうー男ーのひて女のもとよひと夜やとれりけるよいう

よーてうきゝーりけむ友ふりける男のうくふんいひおと
せさりける
花よやとうりつといもで移り香をさすうよくーと妹
もうらみー
男うへー
さく梅の香をふつうトみねされともすきものとのみ
人をいふめり
むうー男ふるさとよありとひて法師よふりてものまふひ
よいてさつとてよめりける
うーろ髪わうゝーらよむふりけりひうるくものや

とくろかるらん・

山のえよりすみのさかひきけるをみて

ろへりみるとゝ山のもとのあさゝすみさちとゝれよー

空そこいしき

ほとへてふさくひくゝ名んそくーてあつまのゝさよありけ

るよ道よもむゝーの友よあひけりふるきとよありしをり

のゝとゝもゝさりいてけるついてよ

うりろゝみ君ろゝーらよおひさちぬいまもいつくよ

心ひくらん

をとゝとゝへー

くらへこーふりわけろみのいもとあらもひきゝへき

ろゝ心ふらまー

むゝーをとこありけりものよみ手ゝくわきともつさかろ

らす心をえいとうるをしくてみやひの道このめりけれと

すろさろさちあまりよみよくゝりけれを心くろーくおも

ひけれとせんゝさかりけりとある人のもとよいきける

よ女ともさうーのすきまよりのそきていとみくるーきを

ところかうちくりよ目しをふつきさらんやうかりかといひ

のゝーるもあれをろゝるをとこくそそほつともいふゝろ

めれかといひさくもありてひさふるよあさみとらふを

とこさへうねて

そはつともいたくいたをふんしりとてゐれをはりす

る人ふらめや

人〻さゝあきれよあきれてしつまりろへりてけりむかし

ひとをゝゝるまけしさましひをふんもさりける

むろしをとこありけりあまりよいきとかりけれをとき

の人みあさ寝師とふんいひける

朝寝師ろひるねこのみてゆふまとひとま〳〵おきて

るねふりをする

とよめるを此をとこのうへをいへるなるへしその妻もま

さをとこまさりていきとかりけれをとこうちふけ

きて

秋のよの千夜をひとよとふすらへて八千夜しねをや

あく時のあらん

女ろへし

秋のよのちよを一夜よふせりとをおきての後をれふ

さろるへし

昔をんふありけりいろとのみふりけれをみめよきをとこ

のころねありけふるをえらひてまくらすゝめんとてさろ

しありきよけりをきゆきてとある川のをとりまてきよけ

るよそのとさりのをとともおいさるもとうきもさうき
もいやしきも此女みよとてつとひきよけりそう中よたく
ひさけたまれりけるゝおほうりけりひとりのをとこよめ
りける

我もうり色このむ人をまさもあらしとおもへを水の
上よもありけり

女とれをきくて

水のおもよ影やみもらんうをつさへ水の中よてもろ
こゑよふく

人をひとゝもおもひさらぬかるへし

昔をとこ人のもとよいきてひと日ものうさりしけるよゆ
ふくれうさよふりて雨そふりいてくいとさむうりけれ
もあるしのきぬをうりておのうきぬの下ようさねてきよ
けりうくてうへるさよ女うりとそらひけるよあかうちよ
ひきとめてけれを夜ひと夜やとれりけりつとめてその
きぬをうのあるしのもとへうへしつうをすとて

ゆくりふく花の香ふれし袖かれをうへすもをしきこ
とちとそすれ

あるしうへし

花の香よふれてうへりしそてかれをうきぬかうら

ふつゝしきゝふ・

まさ消息の末よ

とれやとゝいもよあふハきさゝふらんふりよしそて

も花の香そする

をとこふさくひゝへし　鈌文

昔をとこありけり女ゝりいきてゝさらいけるよきぬきぬ

の別をしみてよめりける

ゝへりかんいさとをいへとあやよしきさゝまくをし

き花の木のもと

昔をとこあるをんなよけきうして言よりけれといとつれ

ふりけれも

さをるへくみゆるものゝらやまさくらあまり水さゝ

き花いゝよせむ

むゝしをとこあるゝゝれめよ物いひゝをしけるとろ

うきくきのうきさるをふとみけれとも弥ふゝらひく

そゝさくそありける

むゝしをとこありけゝふふよゝし皆人のえゝて

よすといふふるをんふよあひていとよろこはひてよめり

ける

ちそやふる神さよしらぬこひふれと千代もといのる

とよひかりけり

をとゝいれをきて

人の名もさゝ名もさくぬとひあらをむすふのうみも

うれしゝらまし

むゝしをとこおきておもひふしておもひおもひあまりて

よめりける

とれかからあやふまれけりまよひ入こひの山路のを

でをしらねも

ひとゝころつねおきものとしりぶらあやしく木を

ちきるかりけり

昔をとこ女とふさり舟よのりてとある橋のほとりまてい

きけり舟人をゝれひさうへよとて出てしをへらさり

けれもほゝよひともかゝりけりゝさみよおもひあへりけ

れとしゝすゝよをちらひて物をさよえいをさりけりをと

こよめりける

きく人のおしとれもへも中くよそゝろとをきへいを

れきりけり

女何とゝとさへけんきこえす

昔をとこひとのむすめの十二三よかれるゝいとらうさけ

かるをつくゝ見をりて

ひとりさつきしのいもねの姫小松ろねてちとせの陰
を見えけり

昔女ありけりをとこのつれなかきをうらみて

うすからぬうきみの上ろをかけくとやおもふを人の
おもはさるらん

をとこうさをえよまきりけれとうへーをかりけり

むろーをとやよひもろり山吹の花よそへて女のもとよ
つろはしける

あふことをうさ岸よきくやまふきのいもておもふと
人をしらふん

昔をとこあつまよくされりける道よて大井河の不とりま
てきよけるよかろ雨よ水ろさまきりてとるへきやうも
あらすせんすへふくて日坂といふうまやよ日ひと日夜一
夜とゝまれりけりろくそのうまやのくゝつ女よせくり
ふくあひけるよ次の日ふこりをしみて

旅人よつみのとされー道のへのをみかへーをとふつ
ろーきろか

まさ

くさまくらひと夜ろりねのやとうさへろつり見らる
るあさはらけろか

昔をとこあるをんなよけさうしてけれといひよるへきよしふくてやみけるよそのをんなりそめのやまひおもりてしよけりほとへてある人のもとよいきけるようさひめともみさりよさりきよけりその中のひとりれいのをんなよつゆもかりもとゝをすをとこふさゝひ心うこきよけりさてよめりける

昔見し月のゝつらのさとふらてそれゝとみゆる花のおもゝけ

まさ

く前とみてやまんとすれとあさふ〳〵心よゝくる

花のおもかけ

女せちふるこゝろよめでゝやゝてあひよけり男いゝようれしゝりけむゝし

昔をんなかゝれゝさよふりける男をうらみてふとやひさしくゝとぬといひけれを男とりあへす

ゆきゝよふひまとそふけれものゝふのうちの川橋中むさえねと

をんふゝへし

いさつらよまつ夜あけゆくねやの戸のひまとそ見ゆれとぬ君ゝふ

昔をとこあるをんなをよけさうして年とろいひよりけれと
おやのゆるさゝりけれをあもんすへかくてはとへゝけり
をんなも此男を心ありけれもろさみを心をつくしてけり
ろくてある日神まつりの物見のまきれをもしめて其をん
なをあひけりをとをよろとをひて
城をさをゝべーといひー志らたまのえかさき人をあ
ひ見つるゝな

翻刻 博物新編 三冊
萬國輿地全圖 一帖
大日本沿海略圖 同
内科新説 三冊
西醫略論 四冊
婦嬰新説 二冊
全體新論 三冊

英吉利歩兵練法 貌里瓦堡及里尼部 二冊
戰地急構堡砦新論 毎帙二冊
新編砲家必携 近刻
青囊必須 十冊 近刻
栁園叢書 追〻出來
數學教授本 同
洋學指針 蘭学部 英学部 各一冊

江戸本町四丁目 上州屋摠七發兌
中外堂記